

モンゴル語の動詞活用体系

栗林均

モンゴル語は、文法形態的に、日本語と同様膠着語に分類される、それは、モンゴル語において、主な文法的手順が語幹に接続する様々な接尾辞によって表わされるためである。

屈折語と比較した膠着語の主たる特徴は、文法的意味を担う・付属的な形式が、具体的な文法的概念を表わし、しかもそれらの境界が明瞭に認められることにある。

たとえば、モンゴル語の *mystikexahu?* (読ませたまったのか?) という表現は次のように分析することができる。

myst- ul- tsker- ab- u
 読ませ 完了 過去 疑問
 読ませ せ ちませいた (の)か

ここで使役態、完了相、過去時制、疑問等の文法的意味が互いに分明な付属的な形式によって表わされていることがわかる。ちなみ

に、右の例にみるように、両言語(およびその他の膠着語)において、大部分の場合、それらの文法的形式の配列の順序も合致していることは注目に値する。

◎モンゴル語の動詞活用体系

モンゴル語では、文法的な語形変化の観点から、単語を次のように分類することができる。

語形変化しない……………名詞類
 〔曲用する……………〕
 活用する……………動詞類
 語形変化しない……………不変化詞

上述のように、膠着語では、語形変化は語幹に文法的意味をあらわす接辞が付着する仕方では実現される。モンゴル語の場合、接辞は語幹のあとに付着する接尾辞がほとんどであり、「語形」の変化は通例「接尾辞」の変化に還元することができる。要するに、モンゴ

ル語の動詞の活用は、動詞類に接続する一連の接尾辞(以下これを活用語尾と呼ぶ)の体系にほかならない。

モンゴル語の動詞活用形の種類、つまり活用語尾の種類は三十に及ぶ。それらは、文法的な意味と機能によって、普通次のように分類されている(かっこ内は活用形の数)。

- 動詞活用形(30)
- 1 命令・願望形(10)
 - 2 終止形(4)
 - 3 形動詞形(6)
 - 4 副動詞形(10)

具体的にどのような活用語尾によってどのような意味が表わされるかは、活用体系の一覽表を見られたい(次頁)。付言すれば、命令・願望形のうちには、命令形のみならず自発、容認、希求、懸念といった法(ムード)に関連した表現が含まれており、単なる命令形と混同しないよう注意を要する。

また、時制は終止形によって表わされるが、習慣、完了の形動詞形がそのまま文の述語となり、終止形として用いられることが広く行われている。形動詞形は名詞類を修飾するほか、動名詞的な意味(〜すること、〜したこと)で、曲用語尾をとることができる。副

モンゴル語の動詞活用体系

命令・願望形	命令(1)	-ø[ゼロ]	行け。
	" (2)	-əgtəŋ	行って下さい。
	" (3)	-ārai	(あとで)行きなさい。
	" (4)	-ātš	(すぐ)行きなさい。
	自発(1)	-yā	行こう。
	" (2)	-suGai	" (文語的)
	容認	-əg	行くにまかせよ。
	願望	-tuGai	行けよかし。
終止形	現在・未来	-ən	行きます。
	過去(1)	-əb	行った。
	" (2)	-dzai	" (伝聞)
	" (3)	-lā	" (体験)
形動詞形	習慣	-dəg	(いつも)行く～
	行為主	-əgtš	行く(人)
	継続	-ā	行きつつある～
	予定	-əx	行く(はずの)～
	可能性	-mār	行きうる～
	完了	-səŋ	行った～
副動詞形	並列	-dz	行って…
	連合	-əŋ	行き…
	分離	-ād	行ってから…
	継続	-sār	行きながら…
	随伴	-əxlār	行くと…
	即刻	-məgts	行くや否や…
	条件	-bəl	行けば…
	限界	-təl	行くまで…
	譲歩	-əbtš	行っても…
付帯	-əŋGā	行きながら…	

動詞幹

例: yab-
(行く)

注) 上の場合əはāに同じ

動詞形は動詞類の修飾語となる。

◎活用における人称・数・性

モンゴル人民共和国や中国内蒙古のモンゴル語では、動詞の活用に人称、数、性などの文法的範疇を持たないが、方言的、歴史的にはそれらが存在していることが指摘できる。

同じモンゴル語族に属するブリヤート語、ダグール語、カラムイク語、モゴール語では、若干の活用語尾のあとに人称・数を表わす接尾辞(人称語尾)があらわれる。たとえば、ブリヤート語で yabana (行きます) に対して yabanab (私が行く) yabanas (君が行く) yabanabdi (私達が行く) yabanat (君た

ちが行く) yabanad (彼らが行く) のように人称語尾が付いた形がある。さらに、十三、四世紀に属するモンゴル語の文献『元朝秘史』の言語では、動詞活用の終止形に、主語の性と数に応じた男性形、女性形、複数形の語尾が存在していることが認められる。たとえば、過去形語尾のひとつ

-ba/-be (男性形) -bi (女性形) -bai (複数形) 等。

yaban : yabaxgüi : yabexü
行きます 行きません 行きますか

〔くりはやし・ひとし 日本学術振興会特別研究員〕

◎否定表現、疑問表現

命令形の否定(禁止、打ち消し)は、その直前に助詞 bu^h な s^h bigi を置く。

例、bü yab (行くな)。

他の活用形、すなわち終止形、形動詞形、副動詞形の否定は、伝統的にはそれらの直前に助詞 E^h ないしは s^h を置いて表わされ、今日でも文語的な表現でこのやり方が用いられることがある。

これにかわって広く用いられているのは、形動詞形に ^h E^h () が無い() が接続した否定形である。たとえば、

ü yaban (行かなs)にかわって yabaxgüi

ü yabex xün (行かなs人) ~ yabaxgüi xün

ü yabbal (行かなsなs) ~ yabaxgüi bol

疑問表現は、終止形の直後に助詞 ^h E^h をつけて表わすが、ここでも終止形にかわって形動詞形が用いられる現象がみられる。たとえば、終止形現在未来の否定と疑問には、次のようにいずれも形動詞形の否定・疑問形が対応するに至っている。